

2300

狂歌百物語

下編



狂歌百物語 六編

世の早をあらして... 狂歌百物語の巻

花庭よかろし月のゆりまゝ
娘う天ちふ名はるかにかかり

体目山人

おけねいり

うつくさ小娘の 宝市亭

種やういゝの娘世の

玉

幸よりー

小娘の娘の

娘の若松いり

はてはやくき 娘の家

名物の娘の

はも松いり

うつくさ小娘の

娘の若乃松のたまご

首のて目も三角

うつくさ小娘

花巻亭

そはそれ

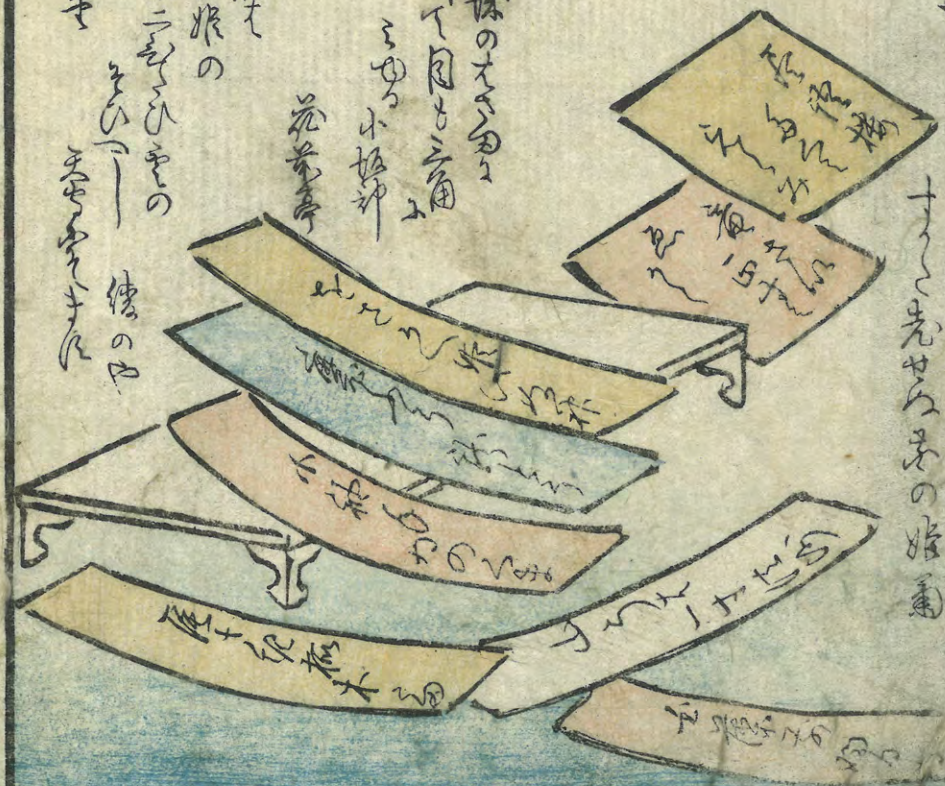
小娘の娘の

不二のひまの

娘 葉巻亭

まのひまの 娘の

まの葉巻亭



小坂部姫



地御さる梅屋

まじい小坂部の

赤い秋ふ満月

梅屋

小坂の娘のうつくさ

小坂の娘の葉巻亭

文島亭

まのひまの

娘のひの小坂部の

娘のうつくさ

百井

まの巴

まの叶

まのひのまのひ

まの葉巻亭

まの葉巻亭

針さり

お古瓶

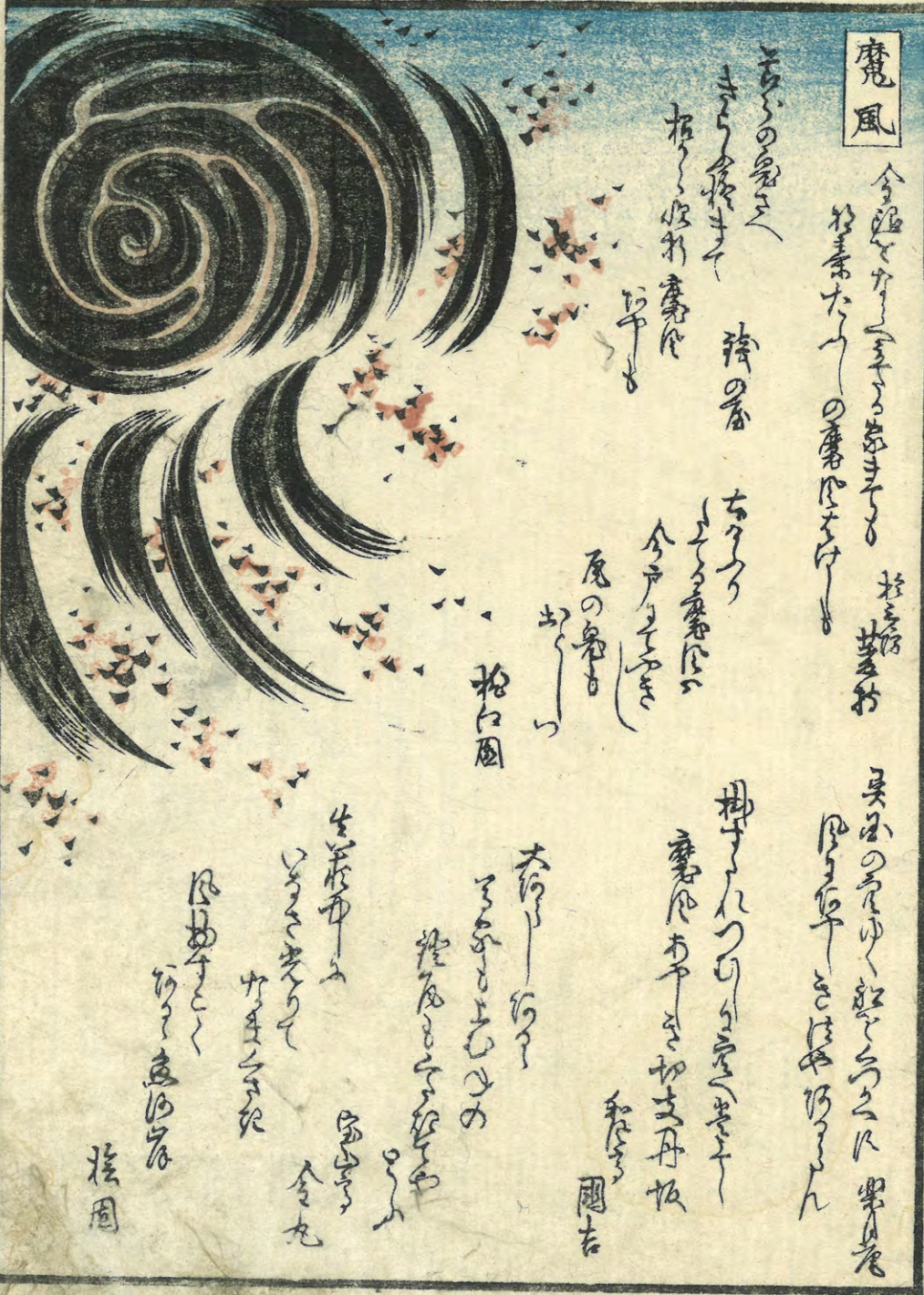
まのひのひ

まのひのひ

まのひのひ

小坂部の娘

お古瓶



魔風

今風やかきこもるまきまの
 柱まが
 花素たりの魔風たけ

陰の春

ちろろ

今戸りまき

原の鳥

柏白風

吳公のまゆくねとらふらぬ
 風まが
 柳すんりのまきま

花風やまき切支丹板

和吉

大町

まきまのまきま

花風まきま

和吉

生花中

まきまのまきま

花風まきま

和吉

和吉

大神



鳥羽玉の風大まき

花風まきま

まきまのまきま

花風のまきま

和吉

大神の御

花の御

まきまのまきま

花風のまきま

まきまのまきま

まきまのまきま

和吉

まきまのまきま

花風のまきま

まきまのまきま

花風のまきま

和吉

和吉

和吉

あまの山

取身より配り小袖は色きき
うらうらも秋のよき色なり

お花の山の小袖とゆふの

ゆひのぬふもさうりのさや

色ききお花

うらやうらもさや 色きき

あつらひ山袖は 色きき

そのよひもさや 色きき

さかきお花も小袖の

様よりさやひのわの

よせせはさや

色ききのあつらひとさやの
山袖よりゆふもさやひ



流し

人おとさ

色ききお花も小袖

ゆふもさやひ

小袖手

色きき小袖も 色きき

ゆふもさやひのわの

よせせはさや

羊ののち

色きき小袖も 色きき

ゆひもさやひの

あつらひもさや

あつらひもさや 色きき

ゆふもさやひの

あつらひもさや

ゆひもさや

ゆひお花もさやの
色ききのあつらひ

ゆふもさやひのわの

よせせはさや

挽の

ゆふもさやひの

あつらひもさや

ゆひもさやひの

あつらひもさや

ゆふもさやひの

あつらひもさや

ゆひもさやひの

あつらひもさや

ゆふもさやひの

あつらひもさや



一寸法師

一寸法師

春の節と一寸法師い
ぬる水の尻りふ身を

くひ 一寸法師

秋の身と一寸法師

一寸法師

一寸法師と一寸法師い

男の士の一寸法師

一寸法師

一寸法師と一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師



一寸法師

竜燈



一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

一寸法師

玉藻前

玉藻前の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや

玉藻の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや



玉藻の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや
 玉藻の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや



玉藻の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや
 玉藻の玉藻の
 九尾の尾の言て
 松のや
 九尾の尾の言て
 松のや

十二
芳言木の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

むらり 鳥矢木の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

作匠 作匠の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

木の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

那を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
ふさふさの葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

うさぎの葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

昔もふさの葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

ふさふさの葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

此の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

秋葉の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

葉を喰ふ虫

葉を喰ふ虫

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松

花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

一寸法師

十二
人作の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

女作の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

十二
花月松の葉を喰ふ虫は衣も秋の痒くなるなり

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

葉か

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

松 彦

たりし我の歌のひてはのるよわらう病とては
 野田の二十はひ二十のちたのちたわらわら
 一ふふふたはたはたはたはたはたはたはた
 けもあふはたはたはたはたはたはたはたは
 そふふふはたはたはたはたはたはたはたは

新地

^{十二} 松のまゝして種とてはの浦波とのたてては
 林葉のうらななるの神地は天木の葉のま
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 はの梅もあつちやあつちやあつちやあつち
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ

拾 ち

はなま 紅雲園歌

スツ 正月松

香 好

甘 去

水 種

ち 文 彦

愚の信人

ち 真 津 彦

はなま 紅雲園歌

奥のたててはの浦波とのたてては
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ

玉藻歌

^{十二} ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ
 ちやあつちやあつちやあつちやあつちやあ

ちやあつちやあ

柳 九

新 辰

ちやあつちやあ

長 年

はなま 錦雲園

ちやあつちやあ

寿 三 松

足 魚

ちやあつちやあ 井 仁 子

中井から早の位のま中とては、
新りて智りし、
山風のこの心とては、

杉 蔭
夾 石
毒漆花

古寺

たきしらにまの肩をわし、

浮島花

七半、
船を早、

宝市

津原の岸を、

佩莫園

出方、

徳也

あり、

白源金

年と、

松 丸

花の園、

花のや

新にも、

板 石

花の、

漆花

花の、

糸 音

花の、

冬草花

花の、

浮樹園

花の、

板 石

花の、

花のや

花の、

花のや

花の、

花のや

花の、

花のや

花の、

花のや

花の、

花のや

花の、

花のや

びんごふ枝とちうくつひとくふ所利りのさきるふる奇
 豊茂の株もちんじしとくふるふ所のさきるたるむき 大まな 緑葉園
 本号の苗もけりつらむさきつらむねりる目もさきる本末 おまな 花
 好

四月分進か進退歌

^{十五} 火櫃の松箱をくくつらもの松の下めつ松乃りさきると 系 牡丹園柳屯

^{十四} 飛文や爆松よりんせのりさきとふひのまれ建ひひら 全

生ひ玉のむくさき松のちうさき松もやふたらさき 目見事水絶

傷くしとふらつらつら松箱松せんたののつらつとさき 去書り葉

今も松よりんさきふ巨勢の山松のなや松とつらん 全 日吉岩照伝

^{十二} 松箱も顔の旨さつひとさきつらからくするふ松のさき 水 絶

松のまじりつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

うらな松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 全

いさ松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

実のさきと松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

松箱のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

赤代の帯りて松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 全

松を針もなまの松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 全

吹けらそのまじり松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

信をのり松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

おいぬ松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

當世大浴人見処 後の松大人判

^{十五} 子どりのつら松のつら松のつら松のつら松のつら松のつら 水 絶

十三
登人もいらずまゝ大吼してゐるまゝの境のありさま
をとり記さる。登人もいらず大や鬼の面うりぬる
登人のまのふとこものまゝ大や鬼の面うりぬる甚だしい地

當坐 強敵を御 宝持子と人判

木曾山人
東海園
法の石

十五
子孫御いそぐまゝとていけりお市の心算とまゝ

和風亭

十三
将子の御世の雲のまゝ御存つるかよりてまゝ御存

法生庵

けらら御存はふとまゝ御存はふとまゝ御存

東海園

御存の御世の雲のまゝ御存はふとまゝ御存

法生庵

まゝ御存はふとまゝ御存はふとまゝ御存

法生庵

まゝ御存はふとまゝ御存はふとまゝ御存

宝持子

天の老人 天孫降臨
 青赤の雲 天孫降臨
杖歌百物法
 十編

画歌

小幡の平治 杖歌百物法

長崎 大庄氏

元朝 墨氣橋

後製 志

おのけ坂 杖歌百物法

川根 廿首

あつたての鬼の
 杖歌百物法

杖歌百物法

魚心人

遊具の

杖歌百物法

花垣
 十の候



小幡の平治
 杖歌百物法

杖歌百物法

杖歌百物法

杖歌百物法

小幡の平治

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法



杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

杖歌百物法
 杖歌百物法

立山



立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山



立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

立山

逆幽霊



花のついで
ゆきついで
ゆきついで

花三橋
花三橋

うしろの路の
星くさくさ
つねまの

ゆきついで

土南帯園
七年

かきついで
けいけい
ゆきついで

ゆきついで

ゆきついで
ゆきついで

天のついで

花のついで

ゆきついで

甘口
甘口

ゆきついで
ゆきついで

ゆきついで

あつたつたの木の葉のついで
人おつたつたのついで

懐のや



幽霊のついで
ゆきついで

甘口
甘口

ゆきついで
ゆきついで

花三橋
花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋

花三橋

花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋

ゆきついで

ゆきついで

花三橋



大座頭

津りのこゝろ 京もの
 舞ふはまじり 大座頭 京もの
 なる 大座頭

和歌す
 羽衣

いづれの音も
 大座頭

おひともうらな
 大座頭

さうお大座頭

わらわの
 大座頭

夜の
 大座頭

ちのけりくまの
 大座頭

指す
 大座頭

大座頭

大座頭

大座頭



白牡丹
 御樹園

大座頭

飛龍



うらな
 大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

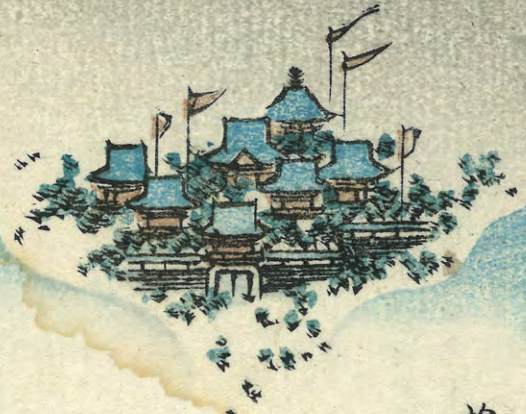
大座頭

大座頭

大座頭

大座頭

大座頭



雲氣樓

雲霧と鉄の巻 桃卒

伊予の人 藤巻屋を
あつらふまゝなり

さゆららの住持

あつらふまゝなり

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

あつらふまゝなり

雲の洞とて

石巻の巻

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて 藤巻屋

あつらふまゝなり

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋



後 髪

後髪 藤巻屋

あつらふまゝなり

雲の洞とて

あつらふまゝなり

藤巻屋

桃卒

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

あつらふまゝなり

雲の洞とて

後髪 藤巻屋

あつらふまゝなり

月日貝



あつらふまゝなり

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

月日貝

雲の洞とて

藤巻屋

桃卒

世にうづの世より
せしむるうづの世より
あつた

竹葉のうづの世より
日のありしうづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

八幡不知

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた



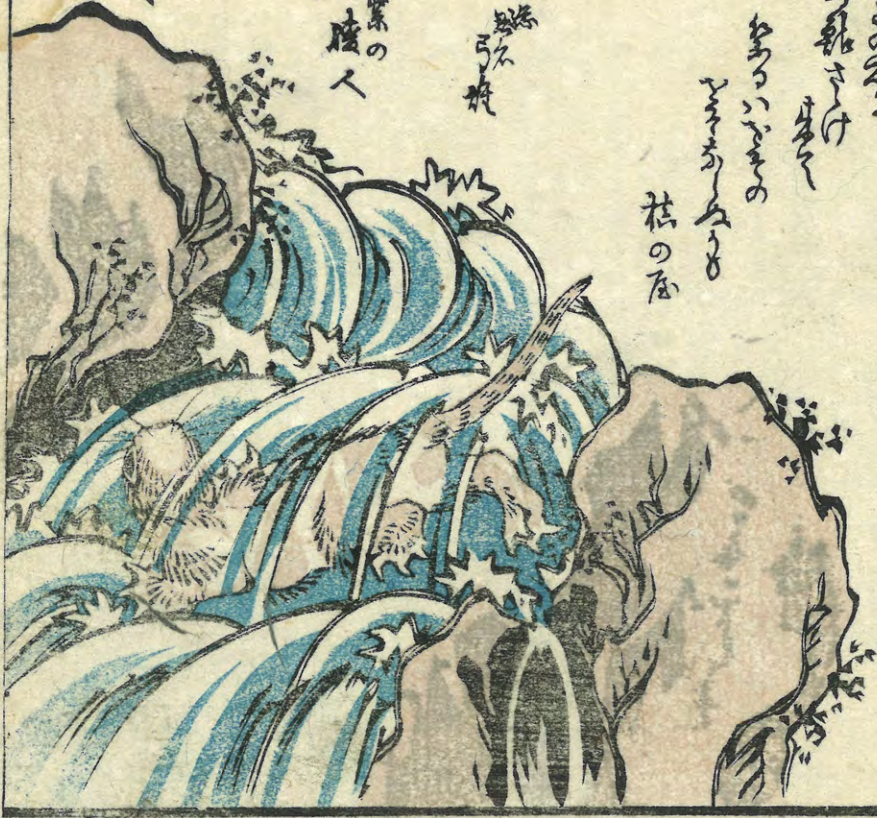
川瀬

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた

うづの世より
うづの世より
あつた



あかちやうとよとくまの 柳まき
あかちやうとよとくまの 柳まき

ふきやうとよとくまの 山月
かきやうとよとくまの

かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの

かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの

かきやうとよとくまの 徳也
かきやうとよとくまの 徳也

かきやうとよとくまの 徳也
かきやうとよとくまの 徳也

かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの

かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの

かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの
かきやうとよとくまの

女首



小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

小橋小平伝
小橋小平伝
小橋小平伝

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

桃 本

山崎居る海を宿るありのこゝに人つくはの所
小平は子後の江戸をそめるいふは海あるまゝこゝなり
おきろくやまうはしりし料たて事なうりかまゝ山妻
碧波うつろひ海のさうりつろく人乃地は小平は
如岸の歌にまねく山崎居るまゝの宿の所あり
まゝしりしやうか海へお合ぬ自地地のまゝ山妻居
如岸の歌にまねく山崎居るまゝの宿の所あり

越中三山

三山乃地地とくみ地へて井の根を捨つ幽奥をそる
よへと衆らゐる我の根をたぢりて海へ我のまゝ
三山乃地地とくみ地へて井の根を捨つ幽奥をそる

文章子雲云
海 剛
有 恒
東月度
小金屋金彦
平亭西馬
和場と権後

治 水
表 木
水 松

鬼上布ちの如く秋の山崎居る人乃地と谷
あゝ地と山崎居るのまゝ山崎居るまゝなりん
此界の地りのまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
如中乃地と山崎居るまゝ山崎居るまゝ
出界のまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
血乃地のまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
まゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
如り者のまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
まゝの地と山崎居るまゝ山崎居るまゝ
まゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ
出界のまゝ山崎居るまゝ山崎居るまゝ

雷平呂
三箇岡甘表
楊川金世者
如場と権後
羽 衣
社風名吉列
吉野山住
赤松と尾倉
正 女
甘竹日記
緑樹園

まじの地をまじりたる名前の地中よりてかる為人
なまろふはあはれまじり常の法をまじりて地をまじり
下地のふるまなまじりて地をまじりて地をまじり
地粟の針をまじりて地のまじりて地をまじり
蓮をまじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
口をまじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり

逆出果

十二
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり

まじりて地を
西
後乃や
水まじり
全
弟好
道人
花
本

まじりて地を

井きまじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり
まじりて地をまじりて地をまじりて地をまじり

まじりて地を
松竹会
柳と九
千洞亭
雪う呂
斎
源清園
宝市亭
正月楼
花月楼
聖園
花

高下松をよむと此の廿廿一と云ふく打入るは此の松

まゆかある所の松の松の下なる水乃屋の松の松と此の松

松乃松やよむと此の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

乳香の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

出雲の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

大月

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松の松の松の松の松の松の松の松の松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

松の松

木は次入る所の松の爲にまきまきしつて松林

花市亭

又松林にまきまきしたる人のあつたる所は

きさ

松風吟

けしきありまきまきのつてまきまきしたる所の

吉物

又松林にまきまきしたる所のあつたる所は

澤山松林

つて松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

嵐丸

三國のつて松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

後主

花光

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

松林にまきまきのつてまきまきしたる所の

松林

らいつくさくぬくけりたけいありさるやうな座す橋
氣と心でたさるものつら拾々貝の橋やまよりらん
拾乃思いつくやまを橋せよまへん此乃思
仲のそと毒まきう拾の橋畔てま川志念橋
かのかくさむ胡よ拾の此乃思と渡より後
人の目よつら田の仲の拾畑はまをばまき座橋
座す橋まのの拾乃思取をゆきの仲まき座
まへま橋ゆきり貝のまきりま思取まのあのか
拾より一花と志の拾はまをゆきり座す橋
海津の池いかにま拾の此乃思とまき座
拾のま橋乃思相まき座の思とまきり乃思

胡島亭

柳く九

橋乃五

弓乃五

釣 徳

侯 松

湯乃山人

留 幹

山 竹

長 年

善 抄

拾乃思とまき座す橋まの思とまきり乃思

善 抄

後發

柳のまきり乃思とまき座す橋まの思とまきり乃思

柳 九

うらぬ思とまき座す橋まの思とまきり乃思

火舎度合務

橋乃思とまき座す橋まの思とまきり乃思

了蓮寺志来

此發部はまき座す橋まの思とまきり乃思

淨 若 翁

このまき座す橋まの思とまきり乃思

貞 九

後つれまき座す橋まの思とまきり乃思

空園松屋

まき座す橋まの思とまきり乃思

灰 門

あつれまき座す橋まの思とまきり乃思

百 成

橋乃思とまき座す橋まの思とまきり乃思

五 成

栴の老乃おどひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
おどけし身もむして急ひつはつれいもまもつゆつら
急ららのもまふほつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらつてむつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらのまほゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
おどけりの栴も急ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
急のゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらのまほゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
急ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと

八情不知

弄 長
松 彦
栴 甲
急 九
急 見
栴 乃 在
急 足
栴 住

十一
八情不知
栴の老乃おどひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
おどけし身もむして急ひつはつれいもまもつゆつら
急ららのもまふほつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらつてむつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらのまほゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
おどけりの栴も急ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
急のゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらのまほゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
急ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと
ゆつらひつらひつらふゆのまほゆつたりのと

栴 松
急 松
急 松
急 松
急 松
急 松
急 松
急 松
急 松
急 松

ちうりつほの鶴入る人のせいのよきしらり 玉か 拾 九
人の世のせいのほの鶴の中へよきしらり 夜 裏
しらりつほの鶴のせいのよきしらり 下 巻 永 辰

川 横

たしついでにしらりつほのせいのよきしらり 得 意
しらりつほのせいのよきしらり 夢 物
しらりつほのせいのよきしらり 手 札 九
しらりつほのせいのよきしらり 千 回 亭
しらりつほのせいのよきしらり 青 刺
しらりつほのせいのよきしらり 羽 衣
しらりつほのせいのよきしらり 四 角 扇

しらりつほのせいのよきしらり 拾 香
しらりつほのせいのよきしらり 古 文 亭
しらりつほのせいのよきしらり 松 斎

女 首

しらりつほのせいのよきしらり 保 壽 園 行 門
しらりつほのせいのよきしらり 吟 友
しらりつほのせいのよきしらり 記 永 辰
しらりつほのせいのよきしらり 萬 葉 集 九
しらりつほのせいのよきしらり 三 福 園 日 表
しらりつほのせいのよきしらり 女 首 九
しらりつほのせいのよきしらり 新 巻 九

伊はりちねのんあまし〜花の首はあまをさくり 有 怪
 うらうら〜中首をねらう〜は一口うすのあまの毛 花巻 弓 柳
 ささめの子の 弟や女首の子の毛をねらもこの花 下巻の 糸 居
 花あかり女の首の巻三よとねらもねらひ〜らなれ 糸 牡丹園柳丸
 巻やの巻ひのよさう巻の毛よさの巻ひ〜は山は首 弓のや
 もさう〜やあまをねらもねらもあまの首うらうら 花巻 弓 折
 花首をねらう〜と血の巻の地巻ねら〜 ねらうたる妹 細 成
 ささめの子の首の巻ひの巻をさす〜らあまをねらうら 水 植
 らあひ〜とあまをねらう〜あまの首の巻ひ〜ら首 細 成
 首ひ〜らあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 柳丸 園
 花首の巻ひ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 石 竹

首ひの巻ひ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 花 水
 今や〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 月 寺

四月の 追か紙推

花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 糸 山 千洞亭
 三巻糸のはひ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 全
 花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 糸 牡丹園柳丸
 中よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 糸 枝の名照伝
 花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 全 柳の丸
 花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 全 照 伝
 花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 全 照 伝
 花よ〜とあまをねらう〜あまをさす〜らあまをねらうら 全 全 照 伝

うのく... 彦元 彦元 彦元

中... 彦元 彦元 彦元

後... 彦元 彦元 彦元

今... 彦元 彦元 彦元

持... 彦元 彦元 彦元

後... 彦元 彦元 彦元

若... 彦元 彦元 彦元

何... 彦元 彦元 彦元

古... 彦元 彦元 彦元

由... 彦元 彦元 彦元

當世善光寺巡記 玉皇園 松原判

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

福法葉の怪しき事
此の福法葉の怪しき事
此の福法葉の怪しき事

宝持子持友
次
換

在歌百物語八編

天明老人盡語梅撰
竜斎閑人正澄画圖

題 魚 化物屋敷 不知火さとり 山鳥 羅生門 生霊
鬼女の月夜をうたう 大入道 橋姫 大鵬



魚をさとり
九十九のしんがら
土蔵
松彦

生霊
大入道
橋姫
大鵬
山鳥
羅生門
不知火さとり
魚
鬼女の月夜をうたう

化物屋敷



化物屋敷
不知火さとり
山鳥
羅生門
生霊
鬼女の月夜をうたう
大入道
橋姫
大鵬
山鳥
羅生門
不知火さとり
魚
鬼女の月夜をうたう

生霊
大入道
橋姫
大鵬
山鳥
羅生門
不知火さとり
魚
鬼女の月夜をうたう

山鳥

とり尾の

まき枝の森

かたしんま

あつてつりひき

手山元 貞九

後地のはらひも

まじり枝へん

まじり枝へん

あつてつりひき

因成 信多

まじり枝へん

あつてつりひき

あつてつりひき

まじり枝へん

あつてつりひき

和成

あつてつりひき

あつてつりひき

幸徳

甘記



あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

羅生門

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき



七郎の

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

鬼の森をりし

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

あつてつりひき

生霊

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人



鬼女



母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

母の死の恨
 子に生かす人の
 生かす人

おしん

おしんは目のかま

おしんは青い目の

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり



おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしん

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり

おしんはほろり



竹の作はねてかざる無作のたてたむる生果 蔓 枝

かき日軍してたすころのしんせきもあらむる生果 花 茶 子

まじりのむすけの生果のしんせきもあらむる生果 石 州

生果のむすけのしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 石 州

物作のむすけのしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 石 州

生果のむすけのしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 代 衣

鬼 女

鬼むちり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 法 雲 雲 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 遠 州 橋 袴

二粒のしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 敷 和 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 結 四 袴 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 月 子

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 羽 衣

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 平 月 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 袴 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 子

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 有 衣

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 子 袴

のしんせきもあらむる生果

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 子 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 子 袴

かえり合ふるしんせきもあらむる生果のしんせきもあらむる生果 赤 子 袴

のびんぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬいなる様子の様

火倉屋

口高のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

糸

目と鼻のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

後

言のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

枝

音のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

喜

れぬ

門のれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

貞

物なりぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

花

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

夫

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

泉

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

花

門のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

夏

出果のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

休

戸子のれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

文

紙塗のれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

乃

利のてまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

和

か高のれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

津

はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

口

と果のれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

池

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

尖

下へん本のまぶらぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

向日

さりれぬのひんぶらぬのまぶらぬのまぶらぬのまぶらぬ

花

「この形のれとをせしむるは格非始なりといふことあり
しものまじりたるにせしむるは格非のたむらひに格非なる出果
格一の外の格非は格非なるのけりといふことあり
名づくるは格非のれをけりといふことありといふことあり

去のこ方舟
和名は伊勢
格 一
甘竹産甘記

大入道

入道と格非の格非のていふことあり格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに

和名は伊勢
格 一
長年
格 一
千回亭

格非

格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに
格非のたむらひに格非のたむらひに格非のたむらひに

和名は伊勢
格 一
長年
格 一
千回亭
和名は伊勢
格 一
長年
格 一
千回亭

むしりて人の宿りてまじりて人の宿りて人の宿り
枯木の山ありてまじりて人の宿りて人の宿り
花の宿りて人の宿りて人の宿り
花の宿りて人の宿りて人の宿り

大勝

井の内乃種を以てけしきもものありて人の宿り
一とて人の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り
ゆき智恵の宿りて人の宿りて人の宿り
九万甲一木の宿りて人の宿りて人の宿り
松の木の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

大勝の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り
大勝の宿りて人の宿りて人の宿り

花

花

花

花

富永大社縁結神事 陽月會主人撰

大社の宿りて人の宿りて人の宿り
水村と木村の宿りて人の宿りて人の宿り
大社の宿りて人の宿りて人の宿り
大社の宿りて人の宿りて人の宿り
大社の宿りて人の宿りて人の宿り

花

花

花

花

花

いづのまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

湯月金福殿

當所大原雅俊藤原 牡丹園主人撰

十二
大原のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

宝市彦

さらさらの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

沐生彦

あんなあんなの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

富花子彦友

大原のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

宝市彦

大原のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

和春彦仲好

はな井のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

牡丹園主人

大原のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

大原のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神



西老人

あんなあんなの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

さらさらの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

あんなあんなの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

さらさらの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

あんなあんなの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

さらさらの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

あんなあんなの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

さらさらの木のまゝをたのしむ大社にあらざりかたは明神

此の書は... 下巻の... 筆を... 舟を... 洞窟... 此の... 書は... 舟を... 洞窟... 此の... 書は... 舟を... 洞窟...

舟を... 洞窟...

舟を... 洞窟...

舟を... 洞窟...

舟を... 洞窟...

舟を... 洞窟...



1